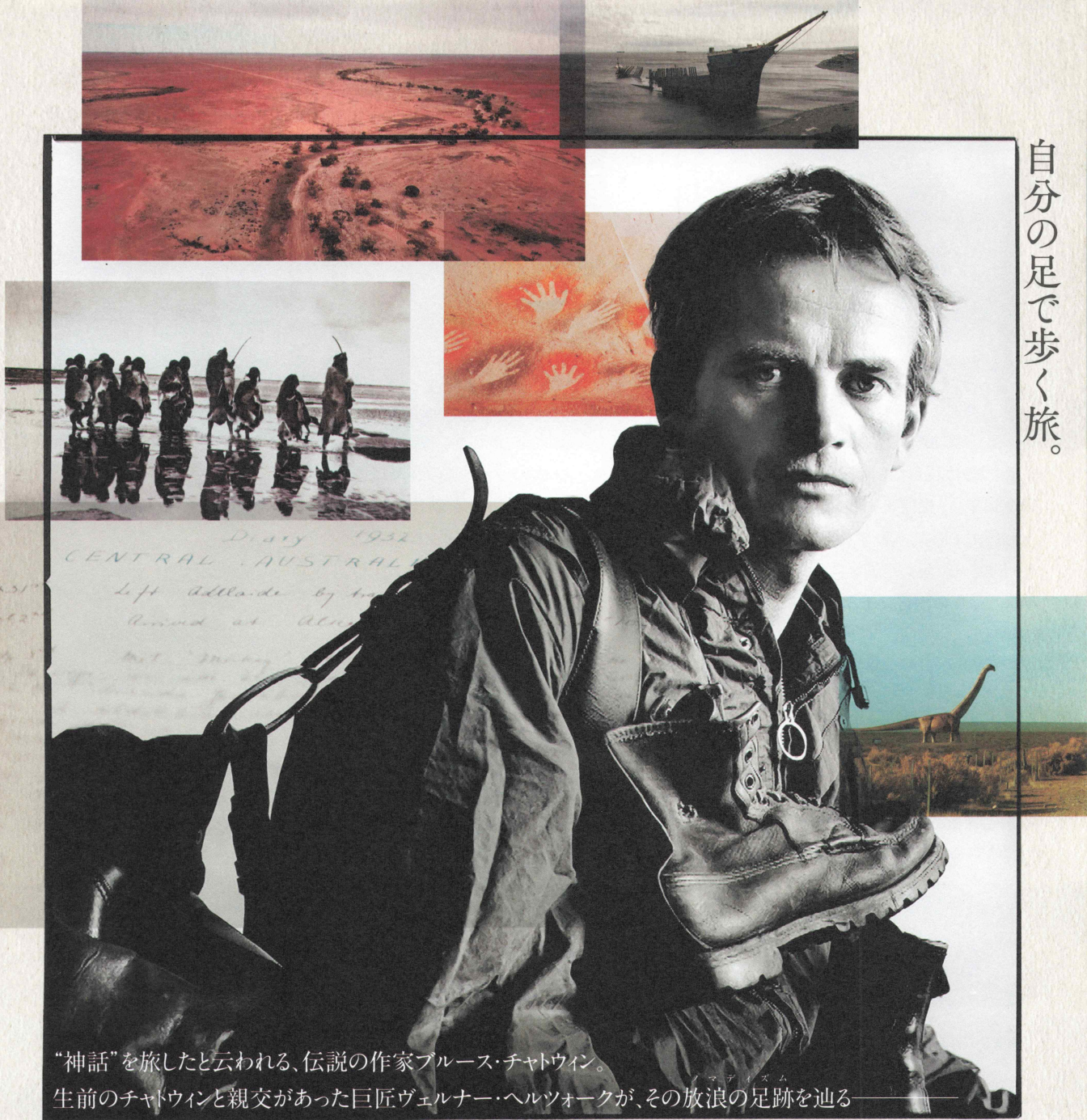


自分の足で歩く旅。



“神話”を旅したと云われる、伝説の作家ブルース・チャトウィン。
 生前のチャトウィンと親交があった巨匠ヴェルナー・ヘルツォークが、その放浪の足跡を辿る

歩いて見た世界

ブルース・チャトウィンの足跡

NOMAD
 In the Footsteps of Bruce Chatwin

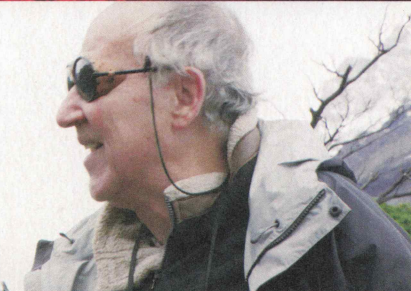
監督 & ナレーション: ヴェルナー・ヘルツォーク (『アギーレ 神の怒り』、『世界最古の洞窟壁画3D 忘れられた夢の記憶』)
 音楽: エルンスト・レイシグル 出演: ヴェルナー・ヘルツォーク、ブルース・チャトウィン、エリザベス・チャトウィン、ニコラス・シェイクスピアほか
 2019 イギリス・スコットランド・フランス | カラー | ドキュメンタリー | 85分 | 日本語字幕: 額賀深雪 配給: サニーフィルム
 A FILM BY WERNER HERZOG NOMAD: IN THE FOOTSTEPS OF BRUCE CHATWIN
 PRODUCED BY TIM JORDAN LISA PHELAN FRANCES KILGOUR NAVID NOORBAKHSH MANDY WELLER MARCO CAPALBO
 EDITED BY ERNST REUSEGER EXECUTIVE PRODUCERS STEVE O'HAGAN LUCKI STIPETIC PRODUCED BY RICHARD BRIGHT WRITTEN BY WERNER HERZOG

この二つの名の組合せだけで
頭がくらくらする——池澤夏樹

伝説の紀行作家
ブルース・チャトウィン
(『パタゴニア』『ソングライン』)

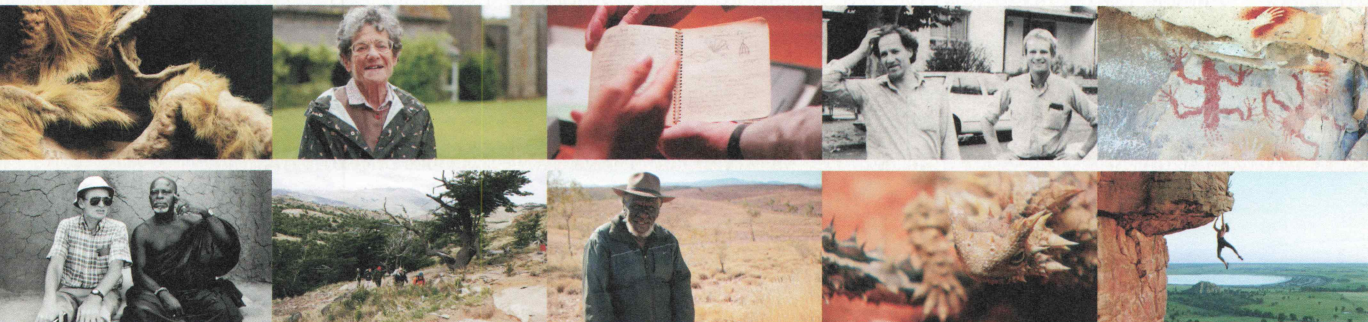
伝説の映画監督
ヴェルナー・ヘルツォーク
(『アギーレ 神の怒り』『世界最古の洞窟壁画3D 忘れられた夢の記憶』)

彗星のように現れこの世を去っていったイギリス人作家ブルース・チャトウィン。この作品は彼の没後30年に、生前チャトウィンと親交を結んだ巨匠ヴェルナー・ヘルツォークが制作したドキュメンタリーである。ヘルツォーク監督は、パタゴニアや中央オーストラリアのアボリジニの地など、チャトウィンが歩いた道を自らも辿り、チャトウィンが魅了された「ノマディズム/放浪」という、人間の存在の根底にある大きな概念を探究する旅に出る。



Story——自分はどうのように生きてゆくのか。

旅人として作家のブルース・チャトウィンは、幼少の頃、祖母の家のガラス張りの飾り棚にあった“プロントサウルズ”の毛皮をきっかけに、先史時代や人類史に関心を抱いた。美術品の蒐集家、考古学の研究生、ジャーナリストと、様々なフィールドで非凡な才能を発揮したチャトウィンが最終的に選んだのは自らの足で旅をしながら小説を書く人生だった。南米を旅し、デビュー作「パタゴニア」を書き上げたチャトウィンは、その後、アボリジニの神話に魅せられ、中央オーストラリアを旅した。当時は不治の病だったHIVに感染し、自らに訪れる死を悟ったチャトウィンは、死が近づいたアボリジニが生を受けた地に帰還するように、物語の中で自らの死に方を探りながら「ソングライン」を書きあげた。映画は、一枚の毛皮から始まったチャトウィンの旅がユーカリの木陰の下で終わるまで、その過程で交差した人々のインタビューを交えながら、全8章、ヘルツォーク監督自身のナレーションで綴られていく。



ブルース・チャトウィン (作家/1940年イギリス生まれ)
オークションで有名なサザビーズで美術鑑定士、収集家として成功を取り、その後、エジンバラ大学で考古学を専攻する。幼少の頃から先史時代に興味を持っていたチャトウィンは、見慣れない物を求めて世界中を歩いた。1978年に『パタゴニア』で作家デビューを果たし、栄誉ある数多くの賞に輝き、時代を代表する作家としての地位を築く。1989年にHIVで他界するまで5作の小説を発表した。バイオグラフィ：『パタゴニア』(78)、『ウイダーの副王』(80)、『黒ヶ丘の上で』(82)、『ソングライン』(87)、『ウツ男爵』(88)。

ヴェルナー・ヘルツォーク (映画監督/1942年ドイツ生まれ)
1960年から60年以上、映画の監督、脚本、プロデューサーを務める。ヴェンダースやファスビンダーと並ぶニュー・ジャーマン・シネマの旗手。『カスパー・ハウザーの謎』(74)でカンヌ国際映画祭審査員グランプリ、『フィッツカラルド』(82)で同監督賞を受賞する。近年では積極的にNetflixやAppleなど国際配信会社とドキュメンタリー作品を手がけている。ヘルツォーク監督のドキュメンタリーが日本で劇場公開されるのは、『世界最古の洞窟壁画3D 忘れられた夢の記憶』(12)以来10年ぶり、岩波ホールでの作品公開は『アギーレ・神の怒り』(83)以来39年ぶりとなる。

[Facebook](https://www.facebook.com/Brucechatwinjp) [Instagram](https://www.instagram.com/Brucechatwinjp) [YouTube](https://www.youtube.com/Brucechatwinjp) [sunny-film.com/brucechatwin](http://www.sunny-film.com/brucechatwin)

6.4 土よりロードショー

特別鑑賞券¥1,500(税込)好評発売中!

(当日一般¥1,800/シニア・学生¥1,500の処) ※特別鑑賞券の岩波ホールでの販売は6/3(金)まで。

岩波ホール 03 (3262) 5252

<http://www.iwanami-hall.com/>

連日 10:30 12:30 14:30 19:00

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線)神保町駅A6出口すぐ上
●JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅下車徒歩12分/神保町交差点角

上映期間 7/29(金)迄

岩波ホールは2022年7月29日をもって閉館となります。これまでエキブ・ド・シネマ運動として65の国と地域274作品を上映してまいりました。温かいご支援を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。